

令和6年度 第30回 大阪市精神保健福祉審議会 自殺防止対策部会

1. 日 時：令和7年2月27日（木）午前10時00分～午後12時10分
2. 場 所：大阪市こころの健康センター大会議室
3. 出席委員：大藤委員、上田委員、甲斐委員、佐田委員、澤委員、柴委員、林委員、北條委員（五十音順）
4. 会議内容

報告1 大阪市の自殺の状況について

- ・資料1の9ページに記載されている内容について、その他の無職者には何が含まれるのか教えてほしい。また、11ページの内容について、女性の自殺未遂歴の割合が高かったと思うが、女性の場合は自殺未遂することで、苦しい気持ちとかを分かって欲しかったのだらうと感じたところである。
- ・大阪市において独居の方が特徴的に多いというデータを示してもらったが、東京23区や名古屋市といった政令指定都市との比較した資料があるのか教えてほしい。また、単身世帯については、経済的な状況とのクロス解析はしているのかも確認したい。

報告2 大阪市における令和6年度までの主な自殺対策の実施状況について

- ・大阪市の特徴として独居の方が多いということで、様々な施策を行っている状況だと思うが、本人自身がアプローチしないようなケースが非常に多いように思う。特に男性は自殺未遂歴が把握できてない中で、突然既遂という状況もあるかと思うが、独居の方に対し、行政からの情報提供は可能なものか。
- ・20代の方に対しての取り組みを今後考えるにあたっては、民間のアイデアも取り入れながら実施してほしい。民間であるからこそ垣根を超えてできることもあるので、共同とはいかなくても、アイデア等について今後一緒に話し合っていきたいと思っている。
- ・20代の独居の方だけでなく、高齢になってからも一人で生活する方もいるので、そのような人達を地域でサポートしていけるような機会等を作っていくことが望ましい。
- ・職業別自殺者数について、有職者の自殺者数が一番多いという結果もあったので、職場に対してアプローチ等もできればと考える。
- ・ゲートキーパー養成講座の実績を確認すると、受講者が増えてきていることは、よい傾向である。大学や高校でのゲートキーパーの研修に関しては、資料を見ると、同じ

学校に訪問されているように見受けられるが、学校側から要請があって訪問しているのか確認したい。また、この取り組みは、子どもたちの一番身近なところである先生方がゲートキーパーになり得る人だと思うので、この年はこの学校に行くというように、すべての学校に受けてもらえるような状況になればと考える。

- ・昨今 18 歳の成人になる高校生や大学生を狙ったマルチ商法が流行ってきていることを聞いており、そこから多重債務になって自殺を考えるといったことも想定されるが、そのような消費者問題に関連した視点をどれぐらい持っているのか確認したい。

報告3 令和7年度の新たな自殺対策の取り組みについて

- ・こども・若者の自殺危機対応チーム事業は、学校現場からのニーズはとても高いと思うが、ニーズはあるが、仕組みを間違えてしまうと、学校現場にとってはむしろ負担になってしまう事業になりかねないと懸念している。自殺危機対応チームで得た助言はあくまでも参考として受け取り、現場に生かしてもらおうというレベルなのか、あるいは、助言をもらったからには必ず報告して、どのようにその後進んでいったのかという強制力を持つものなのか確認したい。
- ・この事業を実際に行うとなった際、現場レベルでどれくらいの先生方がこの事業があることを把握するのか、また、把握したとしても、スクーリングシート等を活用して、支援要請につなげるぐらい学校現場に余裕があるのかという点についても懸念である。
- ・この事業について、学校側から支援の依頼があったときに、大阪市側からもサポートしていくといったアクションをするという意味であるのか確認したい。